

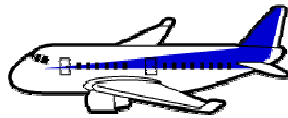


酸性雨

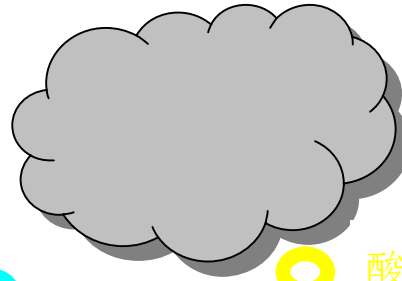
皆さんは、酸性雨という言葉聞いた事があると思います。実は、自然の雨は最初から、弱い酸性です。それよりも強い酸性の雨のことを酸性雨と呼ぶのです。酸性の度合いはPHであらわします。PHの値が低いほど、酸性が強いということです。酸性雨とは、PH5.6以下の雨のことをいいます。

酸性雨のできるしくみ

- 工場や自動車などから、はい気ガスが空気中に放出されます。
- 空気中で、化学反応を繰り返して、酸性の物質（硫酸・硝酸）になります。
- この物質が、雨に溶け込むと“酸性雨”霧に溶け込むと“酸性霧”雪に溶け込むと“酸性雪”といいます。



化学反応



酸性雨



窒素酸化物・硫黄酸化物



酸性雨の影響

酸性雨が降ると湖や沼や土が酸性になり、魚などの生き物が住めなくなるだけでなく、森林までもが枯れてしまいます。さらに、コンクリートや大理石や金属で出来ている建造物、文化財もむしばまれ変色してしまいます。日本でも欧米とほぼ同じ程度の酸性雨が測定されています。

人の体への影響もあります。直接的影響として、目や喉や鼻に刺激を感じるなどがあり、間接的影響としては、酸性雨によって変質した水道の水を飲んだことにより、髪の色が変化することがあります。

酸性雨への対策

私たちが身近に出来ることから考えてみましょう。硫黄酸化物や窒素酸化物の排出を抑えることです。たとえば、できるだけ自動車の利用を控え、はく気ガスを減らすように心がけたりして、空気を汚さないように一人ひとりが気をつけましょう。

